



題字・天野貞祐

第92号

令和元年5月25日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1
TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)
獨協同窓会 発行責任者 木原正義

主な内容

令和元年と共に新たなスタートを	木原正義	(1)
令和元年度 総会・講演会・懇親会のご案内		(2)
総会前特別講演会		(2)
令和元年度 通常総会 議案書		(3)
第6回 キャリア教育講演会 報告	小柳嘉一	(5)
目白だより 2019年度 大学入試合格者数	齋藤有子	(6)
寄稿「袖章の由来」(制服の歴史)	昼間良次	(7)
コラム・ドイツ デュッセルドルフ日本人学校に勤務して	木田宏海	(9)
ベートーベン「交響曲第九番(歓喜の歌)」が歌われた謂れ	岸 房孝	(10)
獨協OB会の紹介 歯科医師獨協会		(11)
獨協OB会の紹介 ドクターズクラブ		(11)
獨協ぶらり旅		(12)
岡山市民と医師会の集い TRF SAMさんによる「ダレデモダンス」	三浦寛人	(14)
クラス会・OB会 愉快だより		(16)
私の近況 卒業ん十年		(21)
寄付金納入者一覧		(22)
同窓会グッズなどの紹介		(24)



<http://www.dokkyo-mejiro.com> <https://www.facebook.com/groups/297418860299984/>

令和元年と共に新たなスタートを

会長 木原正義 (昭和47年卒)

平成30年6月に会長職を拝命してもうすぐ1年、新たな執行部と共に令和元年を迎えました。ご承知の通り、1883年(明治16年)に創立された獨逸学協会学校は本年で136周年を迎えます。この歴史の重さを感じながら学園の繁栄に寄与出来ますよう、スタッフ一同努力してまいります。

浅野一前会長が実現された①財務状況の改善②会務の役割分担化を継続すると共に、より多くの同窓生の方々と双方通行型のコミュニケーションを確立して、一層の繁栄を目指したいと思います。このため、ホームページの拡充、フェイスブックの開設などを通し、若手卒業生にも積極的に参画頂けるよう活動を続



けて参ります。昨年10月には念願の獨協同窓会青年部(仮称)を立ち上げることができました。

おかげさまで皆様からのクラス会便り、近況報告を頂戴する件数は増加傾向にあります。クラス会開催に際しては、必要に応じて名簿をご提供させて頂きまして共に、補助金を支払うことになっ

新たに作製したDマーク入りポロシャツ：2018年9月22～23日獨協祭に於ける同窓会展示室にて、来場者にスピード写真サービスを提供し、好評を博しました。

ておりますので、お気軽に同窓会事務室までお問い合わせください。

さて、令和5年には創立140周年に関連した行事が行われ、再び学園からの寄付金の要請が予想されます。このため財政面の検討を役員全員とするよう会計委員会を新たに創設し、「毎年400万円以上の繰越金増額」を当面の目標として努力してまいります。皆様から頂いた寄附金の総額、人数は共に以前より増えておりますが、残念ながら年会費をお支払い頂いている同窓生は全体の15%に満たない状況が続いております。

何卒なお一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2018年10月31日 S41卒 姚明雄氏が営む「太湖飯店」(水道橋)にて、若手同窓生との交流会(画像のポーズは手で獨協のD)

令和元年度 総会・講演会・懇親会のご案内

開催日時：令和元年6月15日(土)

場所・時間：講演会 会場：獨協中学・高等学校 5F 小講堂
 受付開始：午後2時40分 開演：午後3時00分
 (下記詳細をご参照ください)

総会 会場：獨協中学・高等学校 5F 小講堂
 受付開始：午後4時00分
 開会：午後4時30分

懇親会 会場：椿山荘・4F 雅の間
 受付開始：午後6時00分
 開会：午後6時30分
 懇親会費：会場受付でお支払い下さい

<会費>

昭和37年以前の卒業生……………ご招待
 昭和38年～平成26年の卒業生… 5,000円
 平成27年～平成30年の卒業生… 2,000円
 平成31年の卒業生……………ご招待
 同伴者……………3,000円

総会前特別講演会

【演題】：漢方という選択
 ～高齢者の諸症状に対して～

演者：室賀一宏(昭和56年卒)

会場：獨協中学・高等学校 5F 小講堂

受付開始：午後2時40分

開演：午後3時00分

<ご略歴>

昭和56年 獨協高校卒業(鉄道研究部)
 昭和63年 獨協医科大学医学部卒業
 平成8年 東京医科歯科大学大学院修了
 東京医科歯科大学第二内科入局
 医学博士・日本医師会産業医
 武蔵野赤十字病院、土浦協同病院、
 青梅市立総合病院、都立府中病院、
 黒河内病院にて勤務
 東京医科歯科大学老年病内科臨床准教授
 日本大学医学部総合和漢医薬学分野兼任講師
 平成29年 東京オペラシティブリック院長
 ご専門は内科、漢方内科



令和元年度 通常総会 議案書

開催日：令和元年6月15日(土)

《 総会付議事項 》

第1号議案：平成30年度事業報告の件

第3号議案：令和元年度事業計画案の件

第2号議案：平成30年度収支決算の件

第4号議案：令和元年度収支予算案の件

第1号議案：平成30年度事業報告の件

【概況】

平成30年6月より新執行部体制がスタートした。財務の健全化を図るため会計委員会を新たに立ち上げ、原則役員全員で会計について検討することとなった。また、次世代の同窓会を担う若手の人材を育てるべく獨協同窓会青年部(仮称)を立ち上げ、幹事会にて承認された。

獨協祭(9月22日～23日)に展示参加し、OB会活動報告としてドクターズクラブ、歯科医師獨協会、サッカー部、鉄道研究部のパネル展示を行い、現役生徒や父母らに情報発信することが出来た。また、今回初めての企画としてOB教諭の近況をご紹介します(石井先生・柏葉先生・上林先生・富岡先生・山田先生・吉田先生)、好評であった。

第6回キャリア教育講演会(中3、高1～2年生に向けたOBによる講演会)を2月16日に開催し、演者は平成5年卒 井手壮平氏=共同通信経済部記者=にお願いした。演題名は「ニュースのミカタ～情報洪水の中で本当を見分ける～」と題し、フェイクニュース等に惑わされないよう、情報収集能力と判断力を高める必要性が力説され、終了後生徒からたくさんの質問があり、大変盛り上がった。

例年同様卒業生202名に記念品を贈呈し、また成績優秀者への記念品を授与した。また図書館に図書費20万円を寄付した。

新たな同窓会グッズ①ピンバッジ ②カフスポタン ③ポロシャツ を作製した。これらは寄附金として受領する目的で頒布し、寄附金収入におよそ60万円を計上することが出来た。

財務拡充のための寄附金募集を継続し、200万円を超える寄附金収入を得ることが出来た。また、卒業時に納付をお願いしている同窓会費(1万円/4年間)は全卒業生の62%から賛同が得られた。

＜委員会活動＞

既存の①総務委員会 ②広報委員会に加え、③会計委員会を設立し、出納管理の独立化を図ることにした。

＜常任幹事会＞

合計2回開催し、総務委員会にて検討された議案について、常任幹事の意見を求めた。

＜幹事会＞

合計2回、市ヶ谷の私学会館にて開催し、重要事項の決議を行った。

第2号議案：平成30年度収支決算の件

【主な収入】(¥15,808,494)

- ① 一般会費 ¥5,535,000
- ② 入会金 ¥6,300,000
- ③ 新卒会費 ¥1,260,000
- ④ 寄附金 ¥2,170,758

【主な支出】(12,300,461)

- ① 事業費 ¥9,167,718 (内会報費 ¥2,297,160)
- ② 事務費 ¥3,132,743

【収支差額】(¥3,508,033)

以上、平成30年度は350万円を超える収益となった。

第3号議案：令和元年度事業計画案の件

【概況】

会費納入率は依然として同窓生全体の10%前後を推移し、特に20歳代～40歳代会員の納入率が低い。一方獨協通信は25,000部/年2回を発行しており、支出を圧迫している(会費未納者にも提供)。電子媒体(ホームページ、フェイスブック、ツイッター)による情報提供活動をさらに拡充していく。

若手同窓生にも同窓会幹事として積極的に参加して頂き、彼らの意見を聞き、ニーズに沿った活動を実施することにより会費納入率の向上を計る。

【獨協祭への参加】

大河ドラマ「いだてん」の主人公である金栗四三は、大正7～9年に獨協中学の教諭を務め、この間、生徒による目白→日光 駅伝走を指導した。今年のテーマを「獨協と金栗四三」として展開したい。

【クラス会等への支援】

従来から1万円の補助金を提供しているが、本件を積極的にPRする。

【寄附金に対して】

寄附金を納付頂いた際、速やかに感謝状を発行し、ならびに金額により御礼品の贈呈を検討する。

【支部会(仮称)について】

首都圏以外に在住する同窓生について、その地域に於ける親睦会開催を応援する。

【講演会の開催】

第7回キャリア教育講演会を実施する。

【OB会活動の広報支援】

獨協祭にて、OB会の活動を積極的に紹介する。

第4号議案：令和元年度収支予算案の件

令和5年に迎える創立140周年行事に向けて、更なる財務拡充を目指す。

- ① 400万円/年の収益を実現させる
- ② コスト削減
- ③ 獨協通信有料ページのPR
- ④ 会費自動引き落とし手続きの利用促進
- ⑤ 財務拡充寄附金の継続

平成30年度 収支決算書 及び 令和元年度予算案

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

収入の部

科 目	30年度予算額	30年度決算額	令和元年度予算額
前年度繰越金			64,369,136
入会金	6,300,000	6,300,000	6,480,000
一般会費	6,000,000	5,535,000	6,000,000
新卒会費	1,300,000	1,260,000	1,300,000
寄付金	1,200,000	2,170,758	1,900,000
(内訳) 財務拡充寄付	1,000,000	(1,533,164)	(1,500,000)
スマイルボックス	200,000	(25,494)	(100,000)
グッズ協賛寄附	0	(612,100)	(300,000)
事業収入	300,000	307,000	300,000
(内訳) 懇親会会費	250,000	(307,000)	(250,000)
協賛金	50,000	(0)	(50,000)
広告掲載費(独協通信)	0	160,000	200,000
資産運用収入	50,000	75,736	50,000
合 計	15,150,000	15,808,494	80,599,136

支出の部

科 目	30年度予算額	30年度決算額	令和元年予算額
(1) 総会費	1,700,000	2,458,958	2,200,000
(2) 会報費	2,300,000	2,297,160	2,300,000
(3) 事業通信費	3,000,000	2,793,920	3,000,000
(4) O B会補助費	250,000	180,000	250,000
(5) 学校補助費	800,000	815,512	800,000
卒業生記念品費	(400,000)	(390,512)	(400,000)
図書費	(200,000)	(200,000)	(200,000)
学友会補助	(200,000)	(225,000)	(200,000)
(6) ホームページ費	129,600	129,600	129,600
(7) 獨協祭参加費	50,000	92,206	100,000
(8) その他事業費	50,000	0	350,000
(9) 慶弔費	100,000	192,656	100,000
(10) 渉外費	150,000	207,706	150,000
事業費合計(A)	8,529,600	9,167,718	9,379,600
(1) 事務運営費	900,000	1,163,424	(1,000,000)
(2) 管理費	800,000	764,500	(1,000,000)
(3) 会議費	400,000	371,301	(400,000)
(4) 旅費交通費	300,000	452,440	(500,000)
(5) 名簿管理費	367,200	367,200	(367,200)
(6) 雑費	50,000	13,878	(50,000)
事務費合計(B)	2,817,200	3,132,743	3,317,200
予備費(C)	150,000	0	0
小計(A+B+C)	11,496,800	12,300,461	12,696,800
収支差額金	3,653,200	3,508,033	
次年度繰越金			67,902,336
合 計	15,150,000	15,808,494	80,599,136

貸借対照表

平成31年3月31日現在 (単位:円)

有価証券		(負債)	
(1) 利付国債	7,000,000	未払金	129,600
定期預金	12,000,000	(基本財産)	
現預金	45,498,736	基本金	24,000,000
		(運用財産)	
		事業積立金	36,861,103
		(1) 名簿積立金	0
		(2) 一般事業積立金	36,861,103
		収支差額金	3,508,033
	64,498,736		64,498,736

第6回キャリア教育講演会 報告

講師 井手 壮 平 (平成5年卒)

総務副委員長 小 柳 嘉 一 (昭和48年卒)

2月16日母校体育館においてキャリア教育講演会が行われました。今年度は共同通信社経済部記者の井手壮平氏を講師に迎え、中3、高1、高2の生徒を対象に、「ニュースのミカタ～情報洪水の中で本当を見分ける～」というテーマでご講演を頂きました。

はじめに獨協中学校、高等学校で過ごした6年間の思い出が語られ、この体育館のステージで演劇部の劇を行い、その後、東京都の代表として全国大会にも出場し、沖縄まで行かれたそうです。

次に現在の職場である共同通信社の紹介があり、わかりやすく言えば「ニュースの卸売をするところ」。国内主要通信社とNHK、民放、海外メディア等にニュースを配信している会社との説明がありました。

かつてはほとんどの家で新聞をとっていましたが、今は各種のインターネットメディアがあり、新聞がなくてもニュースが見られる「ニュース戦国時代」と言われています。

昨今アメリカのトランプ大統領がよく言う「フェイクニュース」が話題になっていますが、フェイクニュースに騙されないようにする方法も解説して頂きました。新聞の長所として「一覧性」、「視野拡大力」などが挙げられますが、お勧めの読み方は、まずはスポーツでも文化でも興味を持ったニュースから始め、次第に1面などの重要ニュースを読んでみるということでした。気になったニュースは複数紙読み比べることも上級編として紹介されました。

また、受験の小論文対策として「社説」を読み、これを200字、400字に要約することで「根拠を示しながら自分の主張を組み立てる」という小論文に必要な力が身についたとのご自身の経験談を語られました。

終わりに記者の仕事の使命、魅力、苦労等が紹介されました。



講演中の井手壮平氏

講演の後、参加した生徒から「メディアを目指す人に何が求められるか」等たくさんの質問に一つ一つご回答を頂きました。

講師略歴：1993年獨協高校卒。98年慶応義塾大学総合政策学部卒、共同通信社入社。ロンドン特派員などを経て、現在経済部記者として財務省を担当。著書に「サラ金崩壊—グレーゾーン金利撤廃を巡る300日戦争」（早川書房）、共著に「ノーベル賞の舞台裏」（ちくま新書）



目 白 だ よ り



2019 年度大学入試合格者数

進路指導部長 齋 藤 有 子

今年は3月に入って暖かな日が多かったせいか、桜の開花が早いようです。202名の卒業生を送り出した日は椿山荘の河津桜が艶やかに咲き誇っていましたが、4月までまだ日があるというのに、本校の桜も早3分咲きです。早くても、多少時間がかかっても、本校の卒業生が立派に成長し、見事に社会の優等生として開花してくれることを願っています。

さて、今年度は大きな入試改革を2020年に控えているため、それほど大きな動きは見られませんでした。傾向としては定員抑制が続いているため首都圏私

大がまた狭き門となり、受験生の安全志向が続いたこと、文系人気はやや落ち着いてきたこと、センター試験の平均点が高かったため、国立はもちろん、私立もセンター利用方式のボーダーが非常に上がったこと（MARCHクラスでは90%以上取っていても結果が出ない場合も）などが挙げられます。そのような状況の下、本校の生徒は現役生・既卒生共々努力の成果を十分発揮しております。以下、詳細な資料をご覧ください。

2019 年度大学別合格者数 (推薦者も含め延べ人数)

進路指導部

<国公立大学>

北海道	3
新潟	1
山形	1
山梨	1
宇都宮	1
群馬	1
茨城	1
東京学芸	1
東京芸術	1
電気通信	1
千葉	2
静岡	1
大阪	1
九州	1
長崎	1
国際教養	1
会津	1
高崎経済大学	1
合 計	21

<難関私立大学>

早稲田	13
慶応義塾	5
上智	12
東京理科	10
合 計	40

< GMARCH >

学習院	9
明治	22
青山学院	5
立教	11
中央	22
法政	28
合 計	97

<私立大学>

日本	49
東洋	13
駒澤	9
専修	8
成蹊	9
成城	9
明治学院	4
獨協	16
芝浦工業	20
東京農業	9
東京電機	23
東京都市	5
合 計	174

<医学部医学科>

獨協医科	4
岩手医科	1
金沢医科	1
東北医科薬科	1
杏林	3
埼玉医科	2
聖マリアンナ医科	1
帝京	3
東海	1
東京医科	1
東邦	1
日本	1
日本医科	1
大阪医科	1
久留米	1
長崎	1
合 計	24

<歯学部>

神奈川歯科	2
明海	2
合 計	4

<薬学部>

東邦	2
東京薬科	4
帝京	3
帝京平成	1
城西	3
城西国際	1
日本薬科	4
星薬科	4
明治薬科	5
昭和	1
慶應義塾	1
合 計	29

<推薦入試等>

獨協推薦	6
指定校推薦	10
公募推薦	2
A O入試	7

卒業生数	202
合格件数	582
現 役	297
既 卒	285

【指定校推薦進学内訳 (2019年実績)】※獨大・獨医除く

早稲田 (創造理工1)、上智 (理工2)

東京理科 (A類理工1、A類経営1)

青山学院 (理工1)、学習院 (法1、文1)、法政 (法1)、中央 (総合政策1)

袖章の由来（制服の歴史）

獨協大学エクステンションセンター 昼間良次

私は獨協大学の職員で、獨協中学・高校、及び獨協大学の卒業生ではありません。縁あって獨協大学に勤めることが叶い、以来23年が経ちました。時間の経過とともに、獨協学園の歴史に対する関心が増しています。

2年前の春、足立区生涯学習センター（北千住）が主催する教養講座があり、学校制服の歴史を学ぶ機会がありました。服飾史の研究者が講演し、日本の学校制服の由来と変遷を概観する内容です。最も驚いた具体例が、獨協と関係が深い山脇学園（港区赤坂）の制服です。大正8（1919）年、山脇高等女学校はいち早く洋装化し、それが女子における洋装制服の始まりというのです。ご存知の通り、山脇学園は獨協の教頭を務めた山脇玄とその妻房子によって設立された学校で、開校当初は牛込区（現・新宿区）白銀町にあった獨協の空き校舎が利用されました。

この講演を聴いたことが契機となり、獨協中学・高校の制服に関心が及びました。特徴として理解していたのは袖に回る蛇腹（じゃばら）の筋で、その由来を疑問に思ったのです。獨協中学・高校のホームページを確認すると、やはり特徴として袖章を挙げており、その仕様が紹介されています。しかし、その理由は書かれていません。そこで一念発起し、獨協学園の刊行物を詳しく調べることにしました。

日本の童話作家の嚆矢と言われる巖谷小波（獨協1期生）が「明治20年の日記（18歳）」の中で、制服が決まる様子を後に回想しています。

「・・・学校で夏の制服の相談会があった。僕も級長としてそれに臨んだが、結局白小倉の立襟を極まった。後には鼠の霜降に成ったが、最初は白であったのだ。」

小倉とは小倉織のことで、主に現在の北九州市周辺で生産された良質の綿糸を使い、丈夫で光沢のある生地が特徴です。当時の写真と照合すると、この頃より洋装である白い詰め襟の学生服（以下、がくらん学欄）が着用されています。しかし、すぐに統一されるものではなく、紺かすりに袴姿の和装と学欄（洋装）の生徒が半々です。徐々に制服が浸透し、明治33（1900）年の第9回卒業生集合写真を見ると、生徒全員が黒の学欄を着て

獨協の象徴である学欄



特徴は袖章がつくことです。中学は10ミリ幅の縞ペリ1本と蛇腹が1本、高校は10ミリ幅の縞ペリ1本は中学と同じですが、蛇腹が2本になります。



生徒全員が制服・制帽を着用。袖章と釦が確認できる
明治38（1905）年2月15日 5年乙組
（資料提供：獨協学園史資料センター）

います。

丹念に調べていくと、卒業生が学欄の思い出を語る内容が目にとまり、袖章に対する思い入れが伝わってきます。「当時、われわれの服装というのは、折りえ

りだったんです。いまでもジャバラのすじがきちんと学生服についていますね。帽子とかにもついて。一種特別な服装だったので、獨協の学生というのは、すぐ東京の中でもわかったわけです。」(昭和4年卒業)、「服装は標準的な中学生の風装であったが、袖の近くに黒と濃緑の横線が入り、又帽子にも黒線が入っていて、ひかえ目ながらノブる感じがして気に入った。」(昭和15年卒業)といった回想です。獨協に対する帰属意識と誇りを示すエピソードです。

当然ながら、獨協の学欄は袖章も含めて規定されています。それを「昭和11年度 獨逸學協會學校中學要覽」に見つけました。本校制定ノ服装と題して挿絵を添えて紹介しており、「・・・袖章ハ黒縹縁(帽子ノト同様)ヲ山袖部ニ纏着シ其上端ニ『オリーブ』絹『ジャバラ』ヲ添ハシム・・・」とあります。

ところで、明治12(1879)年に学習院がホック留めの海軍士官型の詰め襟を男子制服に導入し、これが学校制服のルーツと言われています。さらに明治19(1886)年に帝国大学(現・東京大学)が陸軍下士官型の詰め襟・金釦(ぼたん)、いわゆる学欄を制服にします。そのスタイルが各地に広まり、学校制服の典型になるのです。学校制服の浸透は、身分と所属の表示という役割を果たし、日本の近代国家・教育制度が形成される過程で文化として定着します。獨協を例に考えれば、身分とは中等教育機関(現在の中学・高校)であり、所属とは各学校でありすなわち獨協です。

それでは、獨協の特徴である袖章は、何に由来し何を意味するのでしょうか。いくつかの推論が成立します。軍服では袖章は階級を示す識別章の意味があり、太さや本数、色で所属と身分を表します。それは徽章や襟章、肩章も同様です。そう考えると、獨協の袖章は生徒服制として導入された際、当時の軍の服制から採用している可能性があります。一つ例を挙げれば、日本帝国陸軍の下士官とは曹長、軍曹、伍長の総称であったので、その階級の軍服を調べると袖章に共通点を見出せるように推測します。

オリーブ色の袖章とは、獨協の生徒が進学先として憧れ目指した旧制第一高等学校(現・東京大学教養学部)の校章がヒントになりそうです。それはいわゆる「柏葉章」と言われ、柏葉と橄欖(オリーブ)を組み合わせたものです。柏葉は「軍神マルクスの表式」、橄欖は「知識と美術との神ミネルヴァの標章」であ



学欄と外套に袖章を確認できる
「昭和11年度 獨逸學協會學校中學要覽」より
(資料提供：獨協学園史資料センター)

り、両者をもって文武兼備の理想を象徴すると言われます。

また、現在袖章がある学欄は少なく、その理由は釦に替わる際の名残と想像できます。というのも、前述の帝国大学が明治19年に制服を定めますが、その際には袖に釦はなく袖章のみでした。軍服にも袖釦はほとんど見られません。袖章は現在からみれば釦に代わるもので、徐々に釦に替わっていく過程で消えていったと考えられます。

今回は資料が足りず、袖章の由来を解明するには到りませんでした。しかし、今後研究を進め獨協の象徴である袖章の意味を確認し、学欄にまつわる物語を明らかにしたいのです。同窓生の先輩諸兄には、学欄に関するエピソードをお聞かせください。どんな小さなことでも構いませんので、ご連絡をお待ちしています。

最後に、このような機会を与えてくださった獨協中学・高校同窓会の木原会長を始めとする役員の皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

e-mail hiruma_ryoji@stf.dokkyo.ac.jp

(参考文献)

- ・獨協学園編『獨協百年』(第1～5号)昭和54年5月～56年12月
- ・獨協学園編『目で見える獨協百年』昭和58年10月
- ・中西立太『日本の軍装』(改訂版)大日本絵画、1991年12月
- ・熊谷晃『旧制高校の校章と旗』えにし書房、2016年6月
- ・難波知子『近代日本学校制服図録』創元社、2016年8月

デュッセルドルフ日本人学校に勤務して

事務局長 木田 宏海（昭和46年卒）

総合商社丸紅の化学品部門に約30年間勤務の後、ドイツ中西部の街デュッセルドルフにある日本人学校理事会の事務局長として、2007年から2018年4月までの11年4か月間勤務した。丸紅勤務中、デュッセルドルフには2回通算9年半（1986年～1990年、1996年～2002年）駐在していた。日本人学校の理事長は、現地に進出している邦人企業の管理者（社長、支店長）が務めるが、丸紅からの理事長が一番多い。その関係で同校に転職した。

デュッセルドルフは欧州のリトルトーキョーとして知られ、日系企業が500社以上集積し、ロンドンの約350社より多い。人口60万人の1%が日本人で、海外における日本人密度は世界一である。デュッセルドルフ日本人学校は1971年に北米、欧州地区で最初に設立された一番古い歴史を持つ。2021年には創立50周年を迎える。1992年には児童生徒数が約1千名まで増加した。その後はほぼ一貫して右肩下がりで推移しているが、それでも未だに北米・欧州地区最大の日本人学校（小・中学部在籍者数約480名）である。デュッセルドルフ日本人学校のこれまでの在籍者数は延べ1万人を超え、卒業生は各界で活躍し子供たちに夢を与えている。

運営母体は私立だが、教育は文科省の学習指導要領に基づく。教員の8割は文科省からの派遣教員（任期2～3年）である。海外にしながら日本の小・中学校と同じ教育が受けられる。そして現地の言葉や、国際理解教育に力を入れている。ドイツ語教育は、小1から中3まで週1.5時間～2時間+補習（週1時間）をやっている。日本の小・中学校でドイツ語教育を行っている学校はない為、転校生に補習授業を実施している。小・中学部で9年間在籍する児童生徒は非常に少なく、1年間で3分の1が親の転勤で入れ替わる。現地校との国際親善、交流は年間140件程度実施している。子供達はドイツ語が出来ないので、音楽やスポー

ツ交流が主体となる。中学部の卒業生は毎年約30名で、20名前後が日本国内の高校に進学し、残りが現地のインターナショナルスクールに進学する。帰国進学組は20名前後ながら、毎年国立付属や早慶付属高校に合格している。

教員は子供の「能力開発」を担うが、私は各界で活躍している方々を学校にお呼びし、子供の「興味開発」に注力した。日本人宇宙飛行士3名、リオデジャネイロオリンピック柔道金メダリスト、2011年女子サッカーワールドカップ優勝選手、国立天文台元台長、紙飛行機滞空時間世界記録保持者、落語家、朗読劇グループ、剣道日本一、サッカー日本代表元監督、広島・長崎原爆被災者、音楽家、政治家、航空パイロットやCAなど数えたらキリがない。

昨年4月末に定年を迎え、5月に本帰国した。ドイツには通算21年、ポーランド駐在や大学時代のウイーン経済大学への留学を含めると欧州生活24年となり、社会人の半分以上を海外で暮らした。そして現在は獨協同窓会で、週2回ボランティア勤務させて頂いている。今後はドイツ語圏にある日本人学校に、獨協を売り込んで行きたい。



デュッセルドルフ日本人学校正門

ベートーベン「交響曲第九番（歓喜の歌）」が歌われた謂れ

岸 房 孝（昭和 41 年卒）

平成 30 年 11 月 17 日に、「開校 60 周年記念式典」に出席した時の事です。私、60 年前に第 1 期 6 年 1 組 10 番で卒業しました。その学校の名は、日黒区立東山小学校です。その式典にて、小学 4 年～6 年生が「歓喜の歌」をドイツ語で合唱し、とても感銘を受けました。60 余年前に獨協中学へ入学した私は、音楽の上林先生から「歓喜の歌」を習いました。当時は、今ほどポピュラーな歌ではありませんでした。そこで、第九が演奏された謂れについてお話したいと思います。

この話は、日本とドイツを繋ぐ心温まるエピソードです。

第一次世界大戦にて日本は連合国側として参戦し、ドイツは敵国となりました。当時、青島（チンタオ＝中国）は、ドイツの租借地であり、多くのドイツ人（軍人＋民間人）が住んでいました。日本軍は青島に攻め込んでドイツ軍を攻略しました。その結果、約 5,000 人のドイツ人を俘虜として日本の各地に作られた収容所に移送しました。徳島県鳴門市坂東に作られた収容所には、約 1,000 名のドイツ人が収容されました。その収容所長 陸軍中佐 松江豊寿（旧会津藩士）は、ドイツ人の尊厳を認め、自主的に収容所生活を運営させました。この時に、製パン技術を始め、様々なドイツ生活様式が徳島の人々に伝わりました。ユーハイム、フロイントリーブ、などは、これらのドイツ人が日本人と結婚し本国に戻らなかった人たちによって創業されたそうです。

音楽好きな彼らはオーケストラ演奏も始め、徳島の



収容所ゲート
（資料提供：鳴門市坂東 ドイツ館）



松江豊寿
（資料提供：鳴門市坂東 ドイツ館）



コンサート風景
（資料提供：鳴門市坂東 ドイツ館）

人々のためにコンサートが開催されるようになりました。

ベートーベン交響曲第九番（合唱付）は、1918年6月1日（土）ハンゼン氏の指揮によって演奏されました。これが本邦に於ける第九の初演です！ まもなくドイツ人達は帰国の途に就くこととなりますが、自主運営を任せられ、文化的な生活が出来た彼らは日本人が好きになり、母国に帰った後に日本での出来事を広めたことでしょう。現在、坂東俘虜収容所跡には記念館が設立され、収容されていたドイツ人の子孫との定期交流が行われています。



鳴門市坂東 ベートーベン像とドイツ館

OB会紹介 歯科医師獨協会

歯科医師獨協会は、「ドクターズクラブ」をお手本に、母校出身の歯科医師約900名（20名の教授陣・50名の現役学生）の親睦団体として、平成24年に中原爽先生（昭和29年卒・日本歯科医師会元会長・元参議院議員・日本歯科大学元学長）を会長として設立致しました。実務面では、各大学の世話人から選出された

3年任期の代表世話人をまとめ役に、毎年春の学術講演会・懇親会や歯科志望後輩への支援を目的とした秋の獨協祭参加などの事業を展開しております。

今後、さらなる母校出身歯科医師のご参加が増えることを願っております。

初代表世話人 森田 芳和（昭和41年卒）東京歯科大学 埼玉県川越市
二代代表世話人 滝川 国勝（昭和32年卒）日本大学歯学部 東京都千代田区
現・代表世話人 池松 武直（昭和42年卒）日本歯科大学 埼玉県越谷市

【各大学に於ける世話人】

東京歯科大学	吉井 一雄（昭和44年卒）	明海大学歯学部	中根 和彦（平成04年卒）
日本大学歯学部	加藤 隆久（昭和48年卒）	松本歯科大学	岡 和彦（昭和49年卒）
日本歯科大学	荻原 和彦（昭和35年卒）		橋口 英生（昭和53年卒）
	岩渕 法一（昭和51年卒）	日本大学松戸歯学部	西原 由恭（昭和53年卒）
昭和大学歯学部	三浦 健二（昭和51年卒）		市川 勝一（平成10年卒）
東京医科歯科大学歯学部	近藤 修司（昭和54年卒）	神奈川歯科大学	中村 隆之（昭和53年卒）
明海大学歯学部	渡辺 幸雄（昭和44年卒）	鶴見大学歯学部	伊能 智明（昭和56年卒）

連絡先 〒136-0074 東京都江東区東砂7-16-2 加藤歯科医院 加藤隆久
TEL 03-3644-3025 FAX 03-3644-9511



「歯科医師獨協会」懇親会

OB会紹介 ドクターズクラブ

古くより獨協学園出身者に医家は多く、現在 1200 名以上の卒業生が医師として、各地で医療・保健・福祉等の分野で活躍しております。これらのスケールメリットを生かすべく、昭和 35 年卒の 4 名の先輩方（荒川泰行、鈴木荘太郎、藤田実彦、松島正浩）が平成 12 年 2 月に当会を発足いたしました。そして、その創設理念は強い絆で継承され、学術情報交換会・親睦会の

定期開催（下記の大学が、それぞれに責任分担）、書籍出版、学園への寄付、医学部進学推進活動などの地道な活動が続けられ、20 年が経過いたしました。

このユニークな同窓会を、是非ともお見知りおき頂ければと願っております。

獨協中学高等学校を卒業された医師からの連絡をお待ちしています。

会長 伊藤 公一（昭和 51 年卒業）北里大学卒業
副会長 谷田貝茂雄（昭和 51 年卒業）獨協医科大学卒業

【各大学に於ける幹事】

東邦大学医学部	緒方秀昭（昭和 55 年卒業）	昭和大学医学部	吉津 徹（昭和 50 年卒業）
日本大学医学部	荒川泰行（昭和 35 年卒業）	埼玉医科大学	佐藤芳貞（昭和 57 年卒業）
日本大学医学部	田中直英（昭和 44 年卒業）	東京慈恵会医科大学	遠藤拓郎（昭和 56 年卒業）
獨協医科大学	平田幸一（昭和 48 年卒業）	杏林大学医学部	豊田道明（昭和 44 年卒業）
日本医科大学	鈴木荘太郎（昭和 35 年卒業）	順天堂大学医学部	遠藤啓一郎（昭和 57 年卒業）
日本医科大学	引間規夫（昭和 42 年卒業）	筑波大学医学部	松村 明（昭和 48 年卒業）
東京医科大学	河合 隆（昭和 53 年卒業）	東海大学医学部	天本治夫（昭和 49 年卒業）
北里大学医学部	伊藤公一（昭和 51 年卒業）	藤田保健衛生大学	三須一雄（昭和 51 年卒業）
聖マリアンナ医科大学	亀谷 学（昭和 42 年卒業）	金沢医科大学	立原弘章（昭和 52 年卒業）
帝京大学医学部	中村哲也（昭和 52 年卒業）		

獨協同窓会ドクターズクラブ 事務局

〒150-8308 東京都渋谷区神宮前 4-3-6

伊藤病院内 獨協同窓会ドクターズクラブ 事務局 齋藤 功

TEL 03-3402-7438 FAX 03-3402-7419



「ドクターズクラブ」懇親会 2019年2月16日 椿山荘

この企画は、獨協中学・獨協高等学校の卒業生が経営する「お店」をぶらりと訪ね、お店の様子を皆さんに報告するという新しい試みです。皆様の周囲にも多くの同窓生が経営する同窓生に親切なお店があると思います。ぜひ同窓会までご紹介ください。地域で頑張る同窓生を応援しましょう！

株式会社タイプショップ g

代表取締役、デザイナー、コンサルタント

昭和 52 年卒 小泉 均さん

獨協ぶらり旅ではこれまで、みんなに自慢したいこだわりのお店や旅館、特殊技術を持った企業など随分訪ねてきた。どれも強い個性があって獨協生ならではの妙に納得したものである。しかし、今回は取材 OK が出るまで実に 2 年、また実際に取材を終えてみて記事にして良いのか、はたして所在地まで明かせるのか大いに迷った。

小泉均さん（昭和 52 年卒）の職場兼ご自宅は荒川区の山手線鶯谷と日暮里の間にある住宅街にあるが表札が無いので取材班の沖山、谷田貝両先輩と私、いったん素通りしてしまった。今や歩行者にもナビが持てる時代だからこそ辿り着くことができた。典型的な日本住宅をスイスやドイツの考え方でリノベーションしたため、彼の地の生活習慣に倣って郵便受けに小さな金属板に彫られていた。玄関に招き入れて下さった小泉さん、私には瞬時に向田先生と成田先生の記憶が蘇った。文学者か画家さんだ！それが直感だった。私の勘が全く当たっていた。度肝を抜かれたのは玄関先にスイスで使用されていたドイツ製の活版印刷機が鎮座していて、しかも印刷はオフセットからさらにデジタル印刷へとイノベーションが進んでいるのに、今も鉛の活字を手組して、インキを練って、紙に圧胴で

転写する 2 世紀も遡った技術で仕事をしていらっしゃる、全く信じられない世界だ。そして、ご自身で監修された『タイポグラフィ・ハンドブック』を見せていただく。フォント、つまり世界の書体について研究されているという。ご職業はグラフィックデザイナーとして多くの仕事をされているだけでなく、お茶の水美術専門学校、長岡造形大学、昭和女子大学、韓国の弘益大学校やスイス・バーゼル・FHBB 特別教員など様々な学校で教鞭をとられたすごい方だ、で片付いてしまうかもしれない。しかし、医歯薬への道なら解せるが、小泉さんのキャリアコースと獨協中高が繋がらない。そして、千葉大工学部画像工学科への進路も結びつかない。そのあたりがイン



タビューの最大の関心事だった。昭和 46 年荒川区立の小学校から獨協中学に入学、小学生時代はいじめられた辛い思い出しかなかったが、獨協に入ると個性を認めてくれる先生や仲間にもまれて毎日が楽しかった、国鉄のストライキで山手線が運休しても通学するくらいだったという。有楽町線が開通すると池袋の乗り換えが出来るようになり西武美術館やレコード店へ幾度となく通い美術や出版物、写真への興味がますます大きくなったという。もっと深く知りたい、中世ドイツで生まれた印刷、先人たちはどのようにして発展させたのだろう、活字はどんな意味があって、書体には何が宿っているのだろう。その答えを探す人生の旅が獨協中高でスタートし、千葉大で偶然デザインと出会って、卒業後は国内外の書籍のデザインを多数手がける。そしてスイス・スタイルのデザイン教育を学びにバーゼルへ留学、そこで得たものから帰国後、新潟県の長岡造形大学創設の際、視覚デザインコースの立ち上げにかかわった。インターネットのウィキペディアで検索すると、小泉さん



は活版印刷家、私塾教師、グラフィックデザイナー、タイポグラファー、デザインコンサルタントと様々な顔を持つ人物として紹介されている。しかし、前述のとおり原点は活版印刷の鉛の活字、文字の大きさや行間、こうしたものへの強い興味、そして実現への道を教えてくれた母校獨協。千葉大合格にあたっては古川先生、小林先生、榮村先生がこのほか喜んで下さっ

おにく 花柳

平成9年卒 片柳 遥さん

89年卒業の有志での定期的なグルメ会、今回は97年卒業の片柳 遥氏がオーナー大将を務める「おにく 花柳」さんへ。89年卒業の藤田 和彦君が大将の掛かりつけ医となっていた事から、仲間での訪問が実現しました。

江戸は日本橋小舟町の閑静な住宅街に佇む隠れ家的なお店です。食べログポイントはなんと4.22!! (2019年4月1日現在)そしてそして、なんとミシュラン☆を獲得!先付けからメのお食事に至るまで全てA4-5の黒毛和牛で構成されます。

一步店内に入ると、凛とした清潔感溢れる雰囲気の中に温かみのある接客で心癒されます。大将からスタッフ全員がネクタイ着用の上に真っ白な料理着を着用。私が気に入ったのは和牛と生うにの一口手巻き寿司と花山椒が添えられたヒレスステーキ。一口手巻き寿司は使用する海苔に至るまで全てに拘りがある至極の一品、ヒレスステーキに至っては旬が3週間しかないとも言われている貴重な花山椒が添えられて、さわやかな刺激とシャキシャキとした歯ごたえで思わずうっとりとしてしまいました。

内容から見れば設定価格がいかに素晴らしいかをお分かり頂けると思いますが、皆様の特別な日に是非ともご利用をお勧めいたします。

店主、獨協愛溢れる方ですので、訪れた際には是非とも獨協生であることをお伝えください!

記：木庭大輔 (平成元卒)

たという。今、還暦を迎えられた境地は「太平の一曲大家を知る」だそうである。先人たちがやってきたことを自分もやってきた。多くのことが解ったが、まだまだ半ばである。人生の第二ステージに立ち極めていきたいと言われ工房に消えていかれた。

今回もすごい獨協生に出会えた。

記：谷口有三 (昭和53卒)



大将：高柳 遥氏を囲んで。

写真左より藤田和彦・木庭大輔・竹内秀幸・浅井(小山)安行



食べログ

<https://tabelog.com/tokyo/A1302/A130204/13028856/>

岡山市民と医師会の集い — TRF SAM さんによる「ダレデモダンス」 —

三浦寛人 (昭和50年卒)

始まりは独協通信です。獨協医大を卒業後岡山へ帰り37年が経過しています。獨協高校昭50年卒です。独協通信の「私の近況」を楽しみに読ませていただいています。5年前岡山県玉野市で歯科医として活躍している昭52年卒平山君の投稿を見て連絡を取り合うようになりました。その後3年前には岡山県総社市で地域医療を頑張っている昭60年卒森下君の投稿を見て連絡を取り3人でよく会うようになりました。3人共岡山に獨協高校同窓がいるとは夢にも思いませんでした。会うと昭和に戻るの言うまでもありません。私は2017年6月から岡山市医師会の会長



左から 丸山泰幸(S59卒) 森下紀夫(S60卒)
サム(丸山正温・S55卒) 三浦寛人(S50卒) 平山雅仁(S52卒)

を拜命しています。毎年市民に医師会を知ってもらうことを主旨とした「岡山市民と医師会の集い」を開催しています。次回は何をするかと考えていたところ、3人で集まった時SAMさんが同窓（後輩）と聞きました。有名な方が岡山にとも思いましたが、とにかく連絡をとって、同窓会谷田貝茂雄先生に連絡をしました。SAMさんはかなり忙しく難しいように言われましたが、何とか個人事務所を紹介していただいたのが2018年の4月でした。医師会理事会で承認を得て、それからは医師会事務局とSAMさんの事務所との交渉でした。TRFの25周年、東方神起のコンサートプロデュース等忙しい中、2019年3月3日に来て下さることに決まりました。2018年8月岡山市行政との会議で、G20首脳会議（サミット）が2019年6月に大阪で開催され、それに伴い保健大臣会合が10月に岡山で開催されることになりました。行政としては市民に周知したい意向で200日前、100日前イベントを行う予定と言われました。丁度SAMさんのイベントが200日前となり行政からの支援も受けられるようになりました。当初の予定より大きなイベント、行政とタイアップすることをSAMさん側にも伝え

了解を得ました。専門のイベント会社に入ってもらい、SAMさんの公演は事前申し込みとしました。やはりSAMさんの人気は凄まじく定員300人のところ、1500人を超える応募がありました。行政より1回公演を2回公演にできないか打診があり、SAMさん側にも相談し快くお引き受けくださいました。そして3月3日日曜日、当日は岡山駅からほど近い岡山コンベンションセンターを会場に10時から開会式があり行政主体のイベント等が行われました。SAMさん及び関係者の方々は午後1時過ぎに到着されました。岩槻南病院の丸山泰幸院長（昭59年卒）も一緒に来岡されました。「岡山市民と医師会の集い」は午後1時30分開会、最初に岡山大学整形外科尾崎敏文教授に「ロコモ予防！運動習慣で健康寿命を延ばそう！」をテーマに講演していただき、その後SAMさんと丸山先生お二人で対談（ダレデモダンス経緯について等）していただきました。そして午後2時45分からSAMさんの「ダレデモダンス」の指導が始まりました。「ダレデモダンス」はSAMさんの経験を活かし、循環器内科医である丸山先生の意見、監修のもとにできたダンスレッスンです。子供から高齢者まで無理なく実施でき、メタボ・高血圧の予防、足腰の強化そして物忘れ・認知症の予防に効果があるとされています。



最初は皆さん緊張気味でしたが、TRFの代表曲「BOY MEETS GIRL」の軽快なリズムに乗ってSAMさんの指導で途中から笑顔に変わっていきました。約1時間でしたが、参加者からは口々に「楽しかった」との声を多数聴きました。休憩時にはグッズ販売と握手会をしていただきました。この間にSAMさん、丸山先生そして三浦・平山・森下と話す時間をいただき、ほんのわずかでしたが高校生に戻れました。午後4時から第二部の公演も同じようにしていただきました（SAMさんのセミナーのみ）。第二部参加者も皆笑顔で帰っていただきました。上手に参加者を引っ張っていき、飽きさせずさすがだと思いました（私も二部は参加しましたが、知らずのうちに本気になっていました）。

救護室も使うことなく、皆さん元気に帰られ、関係者一同安堵しました。SAMさんもお帰りが遅くなりましたが、午後7時過ぎの新幹線で無事帰られました。普段から体を動かすことの大切さを痛感しました。医師会館までの片道3kmは歩いて行くことに決めました。（獨協医大同期会、年に一度のゴルフの為に）ただ一つ残念だったのは、晴れの国岡山のはずが当日あいにくの天気のため欠席者が100名ほどおられたことでした。それでも一部、二部合わせて約550名の参加がありました。循環器内科医が監修した「ダレデモダンス」それだけでも価値があると思います。今後はSAMさんのお弟子さん、指導を受けたインストラクターの方々が全国を飛び回り普及活動を頑張られることを期待致します。そして健康寿命の延伸につながればと思います。

最後になりましたが、今回の企画は同窓会ができてきたものです。ご尽力いただきました同窓会副会長谷田貝茂雄先生に改めてお礼申し上げます。また陰ながら実施に向けてご理解、ご指導いただきましたネクストジャパン（株）芝崎光宏副社長、岡山市医師会事務局職員に感謝致します。同窓会の益々の発展を岡山からお祈り申し上げます。

昭和 37 年卒 獨協 37 年会

今回上林英雄先生にご招待の葉書を差し上げましたが、宛先不明で戻って来てしまい、大変残念な想いでした。幹事が二人とも体調不良のため2年ぶりの開催となりました。赤坂のイタリア料理店ラ・スコリエーラに12名が集い、常連の悪童の他、大久保君と堀内君が初参加されました。大久保君のジェット戦闘機のマッハを超える時の体験談など、びっくりしながら伺いました。堀内君はボランティア活動で頑張っていました。いつまでも話していたい雰囲気でしたが、次の元気の再開を約束して散会しました。

(記：中澤 秀人)



昭和 40 年卒 獨新会

我がクラス会は毎年11月に開催していたが、昨年は12月8日に久々の忘年会を兼ねて実施した。今回も小平先生にご参加いただき、17名と例年より若干参加数は増え、語らいに楽しい花が咲き素敵な盛り上がりを見せた。しかし、これまでの開催における顔ぶれはほぼ定着の感が拭えず、誰からともなく「いかにしたら過去に不参加だった同朋に来ていただけるか…」との話が持ち上がり、決定的な解決策には至らなかったが、兎に角各々が仲の良かった旧友に声を掛け合おうということで終わった。次回は、新元号<令和>最初の11月に開催を予定している。今まで都合で来れなかった獨新会の君達も、是非とも奮ってご参加いただけることを期待している。

(記：桜人)

<写真>敬称略 前列左から：石田敏郎、松川フレディー、水野玄一、小平晋士先生、木田吉成、上原秀雄



後列左から：大山明彦、鈴木宗次郎、大原拓也、布川博永、石光真和、櫻田可人、檜山広和、大河原和夫、横尾峯之（挿入写真=終了前に帰宅2名。上：奈良雅之、下：佐野俊哉）

昭和 41 年卒 獨協中学3組クラス会

平成30年11月17日（土）に品川“N cafe diner & MUSIC PUB”にて獨協中学3組のクラス会を開催しました。体調不良との理由による欠席者が何人かいたため、出席者は横山先生を含めて10名でした。横山先生も一時体調を崩されていたようですが、すっかり回復されお元気な様子に安心しました。“N cafe”は成川君の経営する店で、特別に刺身、サンマの塩焼き、小籠包、てんぷら、銀杏、うどん等 Cafeとは思えない料理をサービスしてもらいました。おいしい料理とお酒に話が弾み気が付いたら4時間が過ぎていました。来年も元気で再会できることを願って散会となりました。

出席者は写真の右から 横山先生、小林、行徳、中村（直）、成川、佐伯、小野、渡辺、三本木、中村（修）

(記：渡辺)



昭和 41 年卒 故栗原幹夫先生の17回忌

2018年11月4日浄土真宗本願寺派最願寺（横浜市鶴見区矢向4-19-18）にて中学時代恩師の栗原幹夫先生（昭和9年6月17日生、平成14年11月4日没）の17回忌が行われ、当日都合のついた昭和35年獨協中学入学2組メンバーである石田、加藤、喜多、島田、白水、相馬、立野、平岡、山口の9名が最願寺最寄りの尻手駅に集合し参加させて頂いた。

17回忌は亡くなってから16年目に行う仏式の法要であるが、最願寺は、延慶山実相院といい、創立は延慶元年（1308年）と伝えられ、開基は、宇多源氏源三秀義の末流宗重であり、



若き日の栗原先生

由緒あるお寺で生前栗原先生が寄贈された鐘が本堂に鎮座している。また、本堂前の碑は緑泥片岩の本格派板碑で、この板碑は本願寺開山の墓碑とも伝えられ、鎌倉時代後期の造立として大変貴重なものとのことである。

今回の経緯は毎年2回開催している獨協中学2組クラス会で昨年7月7日の席上栗原先生の奥様からのお手紙で未だ寂しい思いでいらっしゃることが紹介され、節目の1つである17回忌が昨年11月5日であったことから参加できる人を募って結果として今回の出席者となった。当日は涙雨の天候であった。

昼食のはじめにご子息将人先生（現在 慶応義塾大学理工学部数理科学科教授、先端数理科学研究センター長）のご挨拶があり、お父様の思い出を話され、ご親族の方々とともに会食となった。

会食時には参加したメンバーが順番に奥様との思い出話をし、奥様は我々からの先生の思い出の話に大変喜ばれ、和気藹々な時間が瞬く間に過ぎ、午後4時前に奥様にご子息より中締めのご挨拶があり、お開きとなった。（記：卒相馬一亥）

昭和41年卒 第19回 ミニクラス会

平成31年1月26日（土）に開催しました。

場所：銀座6丁目：中国薬膳料理 星福（シンフウ）
毎回幹事は平岡君がインターネットと電話で連絡をして昭和35年中学入学時2組を中心に1組の一部のメンバーで1月と7月に開催しております。

今回は石田、上原、加藤、白水、島田、立野、山口、横山、平岡、3組の土屋、1組から菅谷と中村の12名です。

今回から有楽町の慶楽が閉店の為、平岡の奥様推薦の「星福」にて開催されることになりました。昨年の11月に栗原幹夫先生の遠忌があり9名の学友が出席されました。幹事の平岡が乾杯の音頭で開催し、各自の近況や今後の予定に話を咲かせており、加藤君が先に帰るとのことです。全体写真を撮って、またそれぞれの学生時代の話に雄弁に語っておりました。

話が尽きないようでしたが、夏の会は同じ場所で、来年は1組の1月会との合同で2020年1月25日（土）に水道橋を予定で、約束して閉会しました。また7月の会で会いましょう。（記：中村昭美）



昭和41年卒 第53回 獨協1月会

平成30年1月20日に開催しました。

場所：中日黒 山田屋

今回は幹事は、森田君と小杉君が場所の設定をいたしました。出席者は、小杉、堀江、森田、松本、菅谷、藤井、長村、下村、下山、斎藤、平岡と中村の12名で、島田が参加は出来ないが顔だけ出してくれました。

平成最後の1月会になりましたが、12名も参加してくれました。

参加予定の河崎君が、インフルエンザの為参加できず残念がっていました。また元気になったら参加を約束しておりました。

全員の最近の近況から報告が始まり親の介護や孫の世話で忙しくしている者も出てきて、話を学生時代に戻すと自由に会話が弾み各グループの中でいろいろな情報交換をしておりました。2時間以上の時間はすぐに過ぎ来年の話になり、平岡からミニクラス会と合同で行うとの提案があり、賛成多数で2組との合同で行います。来年は1月25日（土）に水道橋でやる予定です。（記：中村昭美）



昭和46年卒 太田朝博先生を囲む会

太田先生が手を焼きそして将来を案じていた「いたずら坊主達」が、先生のお身体を案じ何処からともなく集まっては昔話に花を咲かせ、テーブルをたたき、涙を流しながらも笑える楽しい会が定期的に開かれています。

そこに集まって来るのは未だにディスコパーティを開催している、高校時代には隠れてやっていた喫煙、飲酒や麻雀を心おきなく楽しみ親交を深めている元氣



な仲間達です。

この日も、休み時間に小林ベーカリーにカレーパンを買いに行き、停学になった話や母親手造りの弁当を仲間に食べられてしまった思い出話で盛り上がっていました。

こんな奴らが、実業家・医師・税理士・上場企業の役員等として活躍する姿を目の当たりにしても、目を疑いたくなるのは太田先生だけではないでしょう。

2019年3月16日 鶯谷 料亭「一丁」

(記：坂下眞一郎)

昭和47年卒 3年4組クラス会

2018年10月27日に帝国ホテル「インペリアルラウンジアクア」にて、高瀬先生をお迎えし、5年ぶりにクラス会を開催しました。卒業から46年経っていますが、初参加の2名を含め22名ものクラスメイトが集まりました。幹事の高月君、真島君の進行でスタートし、各自の近況報告や歓談タイムと続きました。多くが65歳となり、リタイヤした人や、まだまだ現役で頑張っている人もいます。我クラスは医師が8名、歯科医師が2名、獣医師が1名と獨協らしく多く医療分野に進んでいます。医師だった片桐君は今は亡く、不参加の福田君は脳梗塞を克服し医師を続けています。初参加の代田君は病に倒れ現在医師としての従事を離れていますが、車椅子で出席してくれました。医療に携わる人でも、こういう年代になると健康維持の難しさを痛感します。病気療養中、入院中で欠席した人もいます。それでも、この日はクラスの半数が出席し再会を大いに喜び、懐かしく楽しく、ひとときを過ごすことができました。2次会も多くが参加し盛り上がりました。再会を期して今後もクラス会は続く予定です。(記：根津義博)



昭和44年中学卒 上林先生クラス会

私達のクラスの主管は、あの音楽の上林英雄先生でした。知っている人ならすぐ思い出せる「愛のむち」「愛のほほずり」、そして「大きな声で独語の唱」などなど。中学生の私達には大変な日々でした。スパルタの程度をはるかに超えた熱き指導。今なら新聞???そこで当日は、上林先生に参加していただきました。今年66歳になる教え子たちは、今だから笑える思い出話で盛

り上がりました。先生、次回も必ず来て下さいね。

平成30年11月11日(日)東京国際フォーラムにて。

(記：佐藤真人)



昭和48年卒 同期会

平成30年10月20日(土曜)、銀座三笠会館にて、S48年卒業の学年同窓会を開催しました。当日は恩師の吉田先生、糸井先生にもご参加頂き、46名が集まり楽しいときを過ごしました。毎年10月の第3土曜日に開催しているこの48会も、30年以上毎年継続しており、各クラスの幹事及び有志で構成している幹事会を年5~6回開いています。この幹事会も毎回10名以上が集まり、親睦及び結束を維持しており、同窓会の準備会の役割を果たしています。まだまだ現役で活躍している仲間、再雇用で頑張っている仲間、第二の人生を歩みはじめた仲間等々、色々な意味で人生の転機に当たる年齢になり、参加人数も増えており、会話も多岐にわたりとても盛り上がる会になっています。次回は参加50人を目標としており、これからも10年、20年継続が期待できます。(記：金 承一)



昭和46年中学卒 3組クラス会

2019年2月10日、大変お世話になった吉田卓司先生に会いたくて、先生のご自宅近くに押しかけました。遠方は沖縄からの参加者を含め19名が、また奥様にもお越し頂き総勢21名にて楽しいひと時を過ごしました。我らは昭和49年高校卒ですが、中1から3年間クラス替え無しで過ごした仲間の結束には強いものが在りました。

同窓会事務室の協力を得て住所録を作成し、無事開催することが出来ました！
(記：時田芳昭)



昭和 52 年卒 平成 30 年度 成透会

平成 31 年 2 月 17 日、ホテルパークサイド上野において、高校の主管であられた糸井透先生をお招きし、平成 30 年度成透会（獨協中学・高校 昭和 52 年卒 元 1 組クラス会）を開催いたしました。当日は先生を含め 22 名が出席いたしました。

学生時代とかなり異なった体型の者が多かったものの、皆、当時の面影が残っており、思い出話などで大いに盛り上がることができました。

一方で、還暦を迎え今後の進路を含めた近況報告では、自身の健康や再雇用、子女の就職や結婚、親の介護など、嬉しい話もあればそうでない話もありました。「人生いろいろ」の感がありましたが、皆、前を向いているのが印象的でした。

最後に次回幹事を指名後、集合写真を撮り散会となりました。
(記：小熊 資男)



昭和 52 年卒 同窓会 52 ～還暦を迎えて～

平成 30 年 10 月 20 日（土）、そうこちらの日付け数字を足せば丁度 60 になり多くの同窓生が還暦を迎える事に掛けまして、「六本木ヒルズクラブ・ホリゾンルーム」にて 10 年ぶりに開催しました。会には、当時 6 組の主管を務めて頂いた清棲先生にもお越し頂きました。ちなみに六本木ヒルズクラブは、通常は完全会員制でドレスコードにも拘ったちょっとおしゃれなクラブです。我が代で文系トップ、今や会社でもトップに君臨している O 君に代表幹事を務めて貰い、そんな彼の紹介でファッショナブルに企画出来ました。獨

協生は我が代に限らず、個性豊かでユニークな人生を歩んでいる人達が多いと思います。学園時代からその代表の一人でもある M 君には「Rock 'n' Roll」ロックンロールでの乾杯を、当時のブライアン・フェリーさながらに決めて貰い会はスタート。恒例ではありますが 40 名近い参加者全員から近況報告をしてもらい、還暦を迎えてもまだまだ元気に活躍している友の状況を知り得る事が出来た、貴重な時間を過ごせました。締めには校歌斉唱、これも我が代の恒例となりました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、かなりのメンバーが二次会場の六門ビルまで。こちらはクラブではなく、「みやび邸 一蔵」と、ぐっと庶民的に。近いうちに再会をなどと話し解散、もちろん日付は日曜日、「ほー、まだ元気じゃないか!! もう一軒グラファンまで」。
(記：幹事 森田)



第9回杉並獨協会

平成 30 年 5 月 20 日、荻窪の和風ダイニング「きざみ」で 2 年振りに開催。風格漂う和田大先輩の乾杯の後暫し歓談。近況報告では現役を退いた先輩諸氏等からは地域活動に参加し地元貢献していること、現杉並区長の田中君からは高 2 生の時、将棋同好会を立ち上げたが、授業中には将棋を指さないとの約束を破り会の解散を余儀なくされたとの逸話の披露、弓立君は出席者の多い S54 卒の級友に会いに千葉の富里から参加したとのこと。若い世代の出席者を増やすことを今後の目標を確認し散会。出席者は和田雄幸 (S25 卒)・田村馨 (26)・山本廣資 (33)・塩崎晴朗 (34)・久保弘一 (34)・金有一 (35)・本山徳裕 (42)・永谷小太郎 (43)・竹内文生 (46)・村野浩司 (46)・宮崎一三 (48)・柳澤潔 (49)・鈴木孝一 (54)・田中良 (54)・浜島浩史 (54)・弓立環 (54)・長田茂 (54)・伊藤敏行 (56)
(幹事：S54 卒長田茂)



平成 30 年 松本歯科大学獨協会

平成 30 年の獨協会はかぐら坂「志満金」にて、平成 30 年 11 月 10 日（土）に開催致しました。本年の松本歯科大学獨協会は松本歯科大学卒 2 期から 22 期卒業 12 名の先生方にお集まり頂き開催致しました。

総会は真砂功会長（S47 年高校卒）開会挨拶ののち、各種報告に入りました。最初に岡副会長（S49 高校卒）より平成 30 開催の歯科医師獨協会における世話人会に関する件で、次の平成 31 年歯科医師獨協会の歯科講演会の演者が（S 56 年高校卒松本歯科大学 10 期卒）松本歯科大学教授の宇田川信之先生に決定したとの報告と、庶務会計報告を橋口（S53 年高校卒）が行なって同会の総会を終了いたしました。

次に懇親会は真砂会長の乾杯ご発声ののちに参加者一同乾杯し、懇談となりました。本年の参加者も、昨年同様 50 歳以上の参加者がほとんどですが、今年ではあらたな平成卒の先生が参加され、久しぶりのニューフェイスの登場に懇親会は大いに盛り上がりました。

恒例の集合写真を参加者一同にて撮影ののちに、本年の松本歯科大学獨協会はお開きとなりました。

尚、一部参加者の方々は、より多くの活力充電のために 2 次会へと、夜の街に流れていきました。

（昭和 53 年卒・橋口）



サッカー部OB会

平成 31 年 1 月 24 日（木）、八重洲 泰興楼にて新年会を開催しました。今年は創部 63 周年を迎えます、創設者 高橋龍二さんを筆頭に懐かしいメンバーが集いました。

今年も 6 月下旬に開催予定の第 10 回 目白ダービー（vs 学習院 OB 戦）に向けて戦術会議も活発に行われました！（会長：（S49 年卒）沖山秀司）



ラグビー部創部 60 周年記念

2019 年 1 月 26 日（土）椿山荘にて、ラグビー部創部 60 周年記念パーティーが開催されました。当日は 150 名を超える OB が参加し、盛大に会が執り行われました。ラグビー部の創設者である吉田卓司先生（獨協医科大学名誉教授）を始め草創期にご苦労された OB の方々から現役中学・高校生が一同に集まり、60 年の伝統を改めて知り共有できた有意義な会となりました。同時に OB 会組織を会員の親睦、現役の支援にとどまらず、ラグビーの普及や社会的活動への参加など幅広い活動を目的とした「獨協ラグビー倶楽部」を設立することができました。これからも獨協中学・高等学校の外郭組織として母校の発展の一助になることを念頭に活動していきたいと考えています。（会長：（S55 年卒）芝全行）



私の近況 卒業 10年

●昭和21年最後の旧制中学に入り70余年同級生とずっと付き合っていました。人生いろいろお互い励ましたり楽しんだり種々ありました。気が付いたらほとんどが鬼箱入り。東京を離れて60年余り東京・大阪・神戸と移り、現在は六甲山の下、有馬道そばに住んで毎日健康に注意しながら生活しています。

＜江田 豊(昭24新中卒)＞

●現在リハビリ専念中。戦前のドイツ語文法(2年間ドイツ人女性による)の中学生と東京大空襲のクラス(5クラス中2クラス)消滅が印象的でした。

＜大平 芳弘(昭24卒)＞

●大成建設をリタイヤして四半世紀、89歳になりました。獨協時代の恩師・数学の長崎先生、タヌキ教頭、いもかん先生、また永野・岩間・工藤等親しい仲間たちを懐かしく思う今日(こんにち)です。

＜加賀崎 和美(昭24卒)＞

●母校は歩いても行けるのに、すっかり御無沙汰してしまいました。父彦三郎も獨協卒。戦中・戦後獨協と共に過ごしました。なつかしさでいっぱいです。よき先生、よき友に恵まれ、国語の先生のアドバイスもあり早大一文に進み、また一対一の教えを受け、資料調査に日本の北から南の島々、さらに韓国、時にイタリアにまで足を伸ばしました。今は国立東京博物館考古室に居ます。＜金子 浩昌(昭24卒)＞

●病院にて点滴を受けながら闘病中。皆様のご健康をお祈り致します。＜中島 英雄(昭24新中卒)＞

●定年退職後、ふとしたことから創作折り紙に夢中になりました。四季の花など折ったものをまわりの人にあげて喜んでもらっています。

＜伊達 修(昭24卒)＞

●S21年春、入学の頃は敗戦後の食料・住宅難で、授業はたまに全校で早く終わり先生方も買出しに行かれるとか、皆厳しい生活でした。あれから73年、色々と有りましたが、今は足腰が大分不自由になり妻の助けもあり何とかゆっくりと暮らせ有り難く思っています。

＜中條 嶺嗣(昭24新中卒)＞

●卒業して70年。気持は、若い頃と変わらずさっぱり大成しないが、体は、間違いなくガタが来ている。我等英語組のOB会も一人去り二人去り、遂に数年前解散の止む無きに至った。在学は、戦中の昭和18年から戦後の昭和24年という激動期、OB会での思い出話は、先生の渾名やものまねですと、情景が鮮明に浮かんで座が大いに盛りあがった。イモカン(奥田先生)西洋ルンペン(野口先生)キューピー(島田先生)キートン(長崎先生)タンク(橘先生)等といった調子で、誠に失礼な渾名が多いが、敬愛の念が湧いていなくつかしい。大久間先生は人気があったが、渾名が思い出せない。或いは珍しいことになかったのかも知れない。そう言えば、教頭の田村先生の渾名はタヌキだったが、新校舎(現講堂)の横の急坂(烏尾坂)の上り口に住まいがあり、何となく敬遠して通ったものだ。以前に、生徒達がタヌキ坂と呼んでいるとい

う話を聞いたが、今時の生徒がタヌキという渾名の田村教頭が住んでいたことを知って云っているのか、不思議に思えた。

＜宮田 和夫(昭24卒)＞

●今年10月に米寿に達し、元の勤務先(三菱倉庫)からお祝いとして胡蝶蘭の鉢と金一封を頂きました。これからは健康に留意して人生を楽しみたいと思います。

＜橘 泰(昭25卒)＞

●昭和34年卒業の皆様、お元気ですか。本年は卒業60周年ですね。私達は還暦65歳、古希、米寿と記念合同クラス会を開催してきました。来年は80歳傘寿記念合同クラス会を開催する予定です。2020年10月18日(日)正午より開催いたします。開催場所と会費等は改めてご案内いたします。楽しいひと時を過ごしましょう。今のうちに予定を入れておいてぜひご出席ください。

＜有我 昭蔵(昭34卒)＞

●来年は80歳で東京オリンピックを迎えます。高3の時学園周囲を走る全学クラス対抗ロード競走でもメンバーで走ってクラスが優勝しました。楽しい思い出です。

＜老川 武(昭34卒)＞

●私が何とか今日あるのは、高校の担任故小島晋治先生の御蔭である。皆んなの面倒を良く見てくれて、卒業後も同級生仲間と酒の会花火大会等々、何んと浅草ロック座まで付き合って下さった。本当に尊敬する恩師だ。

＜大沢 悠里(昭34卒)＞

●獨協卒業後は中央大法学部へ、そして埼玉県庁、父の創業した自動車学校の跡継ぎ、以来地元密着。埼玉県議、飯能市長を歴任。引退後は健康・家族・友人に恵まれ良い生活を送ってます。現在78歳。

＜沢辺 瀨壺(昭34卒)＞

●60代は競泳、1500とメドレー種目で、年間50回目指し、70代は会社OB仲間とカラオケ年に数回、今では地元でサークル活動し、週数日に及ぶ。ジムで週2日は汗を流し、新曲を唄い仲間から拍手をもらう人生、80代もこうありたい。

＜田中 新三(昭34卒)＞

●78才を迎えています。今の最大の関心事は認知症の防止です。それには、好奇心を持ち続けることだと思っています。はやぶさ2号が「りゅうぐう」に到着したと聞くと心がわくわくします。

＜矢沢 恒治(昭34卒)＞

●現在小生は股関節痛改善の為入院治療中です。手術はうまくいって今月一杯で退院出来る見込み。同期会は定期に開催された。

＜吉本 明康(昭34卒)＞

●獨協と云えば天野貞祐先生というのが我々の時代の世間の常識でした。”日々の生活の中の規律を大事に守ることが大切”という天野イズムは大きく時代の変化した現在でも若い現役諸君に勉強して戴きたい精神だと思えます。

＜高橋 龍二(昭34卒)＞

●君たちに日本経済を言おうと思っています。1億2000万人が日本にいます。今までは、自動車と電化製品を世界中で売ってきました。しかし他の製品が、格差がなくなって来ています。今のうちに世界トッ

私の近況 卒業 10年

プラスの商品を作ってもらいたくて書きました。

＜海老根 伸二 (昭 44 卒)＞

● 卒後 50 年になりました。まさに光陰矢のごとです。開業医として 30 年以上の年月が過ぎました。娘 2 人共大学病院勤務医ですが、そのうち手伝ってくれることを期待しています。まあまだ現役として頑張っていきたいと思っています。

＜桐生 成一 (昭 44 卒)＞

● 高校卒業以来 48 年間獨協イズムに培われたマインドで人生を謳歌してます。クラブ活動で(自転車競技、国民体育大会、インターハイ等出場) 現在に至るまで連盟・団体等の役員、審判も務めて居ます。

＜吉岡 力 (昭 44 卒)＞

● 栃木県にて内科外科および福祉施設 4ヶ所の運営をしていますが、いよいよ還暦も近づき、引き際を考えだしています。また最近、家族の大反対を押し切り、小犬(柴犬)をかかってしまいました。犬優先の生活となり、家族は皆あきれてるようです。

＜塩谷 眞悦 (昭 54 卒)＞

● 今年次男が成人式。子供 4 人、皆無事に成人コンプリート！女房に感謝です。＜関 勝志 (昭 54 卒)＞

● 卒後 40 年、その後新人類と呼ばれた若者も今やアラ還。根っからの動物好きが高じて現在保護犬、保護猫合わせて 6 匹飼育中。殺処分ゼロ社会の現実を切に願う今日この頃です。＜福嶋 康二 (昭 54 卒)＞

● 共通一次テストの一期生だった自分の子供も次の大学入試制度改革の一期生になるとは何の因果でしょう。医者になって 30 年がたち、獨協で過ごした日々が今につながっていることを実感する今日この頃です。＜瀬島 克之 (昭 54 卒)＞

● 昨夏、杉並区長選 3 期目当選。平成時代これで 10 回目の選挙。初戦敗退後 9 連勝。保育園待機児ゼロ達成するも、肺がん検診見落とし問題で休む間もなく日々奮闘中。＜田中 良 (昭 54 卒)＞

● 千葉で産婦人科開業して 20 年、3 人の子供はみんな東京へ。最近、高校の卒業生、山本、小竹とおやじバンドを再結成しました。デビューを目指して頑張っています(笑)。＜弓立 環 (昭 54 卒)＞

● 即興 100 年目に中学に入学し、昭和の終わりとともに高校を卒業しました。卒後 30 年、新たな時代を迎えるにあたり振り返るとあれほど輝いていた日々はなかったと感じます。今年は慈恵の分院の部長職に就任し、新たな節目を迎えます。

＜行木 太郎 (平元卒)＞

● 北区王子で犬猫病院を開院して 20 年が経ちました。ここ数年、初夏に二人の娘を連れて椿山荘にほたるを見に来ております。新しい校舎になりましたが懐かしく楽しい思い出が蘇ってまいります。

＜松尾 幸一 (平元卒)＞

寄付金納入者一覧 (「91号」以降)

(敬称略)

山田直巳(旧教諭)	吉本明康(昭和34)	木村宗孝(昭和50)	益子泰雄(昭和62)
高橋芳和(昭和16)	里見治(昭和35)	島田敏樹(昭和51)	矢野剛司(昭和62)
竹内正和(昭和18)	益井邦夫(昭和37)	中村光彦(昭和53)	潤岡寛晃(平成02)
中塚好朗(昭和19)	石川詔雄(昭和39)	田中良(昭和54)	朝倉琢磨(平成04)
神山一郎(昭和20)	柳原克忠(昭和39)	野村芳樹(昭和54)	星野剛(平成10)
三枝英夫(昭和20)	岸房孝(昭和41)	都築基(昭和54)	大塚将悟(平成22)
大場荘介(昭和23)	村上喜代次(順)(昭和43)	西谷一晃(昭和54)	稲葉由樹(平成23)
浅野祥三(昭和24新中)	齋藤達雄(昭和43)	高田正道(昭和55)	久保田善之(平成26)
桑嶋陽一(昭和29)	海老根伸二(昭和44)	菅谷敦人(昭和58)	獨協高等学校第69期生成人を祝う会
河井弘(昭和29)	森一博(昭和47)	長尾淳史(昭和58)	
山岸郭郎(昭和32)	秋元雅之(昭和48)	堀井有尚(昭和59)	
小川秀明(昭和32)	久代裕史(昭和49)	山崎博之(昭和59)	

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入のご協力をよろしくお願い申し上げます。

獨協同窓会は任意団体のため、寄付金控除制度の対象になっていません。確定申告での所得控除や税額控除は受けられませんので予めご了承ください。

物故者名簿 (『独協通信』91号以降) ご冥福をお祈り申し上げます

氏名	卒業年	物故年月日					
			黒柳八郎	昭和20年卒	2017/8/7	河井弘	昭和29年卒
			土井榮一	昭和20年卒	2018/9/14	甘菜規矩司	昭和30年卒 2018/10/21
福本理	昭和12年卒	2017/12/4	藤野昭一	昭和20年卒	2015	河合清	昭和31年卒 2018/1/24
有賀境	昭和14年卒	2007/7/20	米田武	昭和20年卒	2018/12/16	調博	昭和32年卒 2018/6/8
福本博	昭和15年卒	2018/8/15	財津直人	昭和21年卒	2018/7	磯田一	昭和36年卒 2017/2/22
石井平八郎	昭和18年卒		北原洪一	昭和22年卒	2016/7/17	小川博久	昭和37年卒 2016/8/3
原和夫	昭和19年卒	2019/1/9	東瀬利豊	昭和24年卒	2013/8/29	三井盾夫	昭和37年卒 2019/1/12
藤原清	昭和19年卒	2018/6/7	綿引篤	昭和24年卒	2018/2/7	横田浩	昭和40年卒 2002/6/14
青木伸福	昭和20年卒	2018/10/2	安達満雄	昭和26年卒	2016/11/1	松村大治	昭和50年卒 2017/7
井口正美	昭和20年卒	2018/7/9	千葉誠	昭和27年卒	2018/6	原光洋	昭和53年卒

お知らせ

2019年 獨協祭のご案内

日時：2019年9月21日(土)～22日(日)
テーマ：獨協と金栗四三



同窓会では毎年獨協祭に参加し、獨協の歴史について展示をして来ました。

今年は、NHK大河ドラマで紹介されている「いだてん」金栗四三氏と獨協とのつながりについてご紹介いたします。

金栗四三氏は、大正5年(?)～9年 獨逸学協会学校(獨協中学)で地理の教諭でした。
獨協生による目白→日光 駅伝競走が開催されていました。

獨協通信 93号(令和元年12月初旬発行)の原稿募集

締切日：令和元年10月10日(木)

同窓生の皆様から、ご投稿をお待ちしています。

- ① ドイツ語圏におけるご体験など(800字)
- ② クラス会、OB会、など集いのご報告(200字)
- ③ 獨協の思い出(800字)
- ④ 近況のご報告(200字)

*頂戴しました原稿への加筆・修正、一部削除などはご承知ください。

*獨協通信は同窓会ホームページにも掲載されますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

郵送の場合 ➡ 〒112-0014 文京区関口3-8-1 獨協同窓会

メール ➡ info@dokkyo-mejiro.com

電話 ➡ 03-3946-6352 (毎週月・木 13:00～16:00)

獨協中学・高等学校PTAより「獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い」

PTA会長 佐久間 寛道

昨年は、同窓生の皆様より獨協祭バザーにご協力いただきまして誠に有り難うございました。おかげさまで多くの収益をあげることができ、子供たちに還元することができました。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、今年も9月21日(土)・22日(日)の日程にて、獨協祭が開催されます。PTAでは昨年に引き続き、同窓生の皆様に獨協祭にご参加いただき、更にバザー用品のご寄付ならびにご提供もお願いしたいと考えています。バザーの収益は学友会への補助金として施設の改善、及びクラブ活動等の活性化に役立てられています。皆様には、後輩である在校生のために、お手元に眠っているお品物がございましたら、下記要綱をご参照のうえ、ご提供くださいますよう、よろしくごお願い申し上げます。

また、獨協祭ならびにバザーにも、ぜひ一度お立ち寄りください。

PTA委員一同、心よりお待ち申し上げます。

記

1. バザー用品の受付期間とご提供方法

- ・受付期間：8月29日(木)～9月20日(金)
- ・宅急便にて下記迄お送りください。(送料はご負担願います)
〒112-0014 文京区関口3-8-1 TEL 03-3943-3651
獨協中学・高等学校「PTA厚生委員会」
- ・お問合せ先：事務・淀縄(よどなわ)
(夏休みなど休校日にご注意ください)

2. ご提供品について

- ・新品もしくは未使用のものをお願いします。
- ・会社名などが入っているもの、試供品・景品・粗品などはご遠慮ください。
- ・食品は賞味期限に余裕のあるもの、未開封のものをお願いします。



91号 訂正してお詫び申し上げます

- ① 12頁「クラス会だより」 誤：昭和41年卒 古川38会 古希の会 → 正：昭和38年中学卒 古川38会
- ② 17頁「私の近況」 誤：益井 郁夫(昭37卒) → 正：益井 邦夫(昭37卒)

同窓会グッズなどの紹介

詳しくは、同窓会事務局へお問い合わせください。

メール → info@dokkyo-mejiro.com

電話 → 03-3946-6352



野球部応援グッズ
キャップ (メッシュ仕立てフリーサイズ)
Tシャツ



昭和54年卒 野村芳樹作

ポロシャツ
ピンバッチ・カフスポタン



協賛広告募集

同窓会では、財務体質改善の一助として、「独協通信」紙面上の協賛有料スペースへの広告掲載を募集しています(下段参照)。会員の皆様から、個人名又は法人名での広告掲載も受け付けています。ご希望の方は、同窓会事務局にお問い合わせご相談ください。「広告掲載取扱い規定」により対応いたし

ます。なお、次号掲載は、「独協通信」93号で、令和元年12月発行を予定していますので広告原稿・版下の入稿締切は、10月10日(木)です。①発行部数約12,000部、②掲載料金大枠が4万円、小枠が2万円。

SASAKI LAW OFFICE 佐々木綜合法律事務所

東京都千代田区神田須田町1丁目26番 芝信神田ビル10階
TEL 03-3255-0091 FAX 03-3255-0094

相続・不動産・企業法務など
さまざまなお悩みを承っております。



お気軽に
お問合せ
ください

東京弁護士会所属
弁護士 佐々木 広行(昭和61年卒)
[平成28年度 東京弁護士会副会長]



医療法人社団

野村会 昭和の杜病院

東京都昭島市宮沢町522-2

理事長 野村 芳樹(昭和54年卒)

医療療養型177床・透析ベッド36床
入院(一般内科・透析)・外来透析随時ご相談ください

TEL 042-500-2611 FAX 042-500-2612

～甲状腺を病む方々のために～

ITO HOSPITAL 伊藤病院

院長 伊藤 公一(昭和51年卒)

TEL 03-3402-7411 東京都渋谷区神宮前4-3-6 www.ito-hospital.jp

医療法人社団甲仁会
理事長 伊藤 公一

NAGOYA 名古屋甲状腺診療所

TEL 052-252-7305
名古屋市中区大須4-14-59
www.kojin-kai.jp/nagoya/

SAPPORO さっぽろ甲状腺診療所

TEL 011-688-6440
札幌市中央区大通西15丁目1-10 ITOメディカルビル札幌5F
www.kojin-kai.jp/sapporo/



獨協同窓会支部会の立ち上げ

地域別の獨協同窓会支部会(北海道、東北、九州、海外等の単位で)を立ち上げませんか。
ご賛同いただける方は同窓会事務局までご連絡ください。

クラス会・OB会等補助金のお知らせ

同窓会では1開催につき1万円の補助金を助成しております。

- 対象となる会合：クラス会、年度クラス合同会、地域支部会、大学等におけるOB会、クラブOB会、その他(学年を越えたドイツ語クラス会等)。参加人数は5人以上。
 - 回数：いずれも年1回。
 - 申請：開催責任者が事務局に申請して下さい。
 - 添付書類：案内状等があるときは添付して下さい。
 - 交付：事前に同窓会事務局に連絡して下さい。
 - 報告：補助金交付後30日以内に「独協通信」への原稿を送付して下さい。写真・当日整理された名簿があれば添付して下さい。
- ご連絡をお待ちしております。